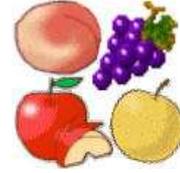




平成24年度 果樹情報 第18号

(平成25年3月4日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (1～2月：果樹研究所)

平均気温は1月が-0.1℃で平年より1.5℃低く、2月が0.2℃で平年より1.9℃低かった。降水量は1月が41.0mmで平年の68%、2月が19.0mmで平年の35%でした。

2 発芽予測 (果樹研究所)

今後の気温が平年並みに経過した場合、もも「あかつき」の発芽は3月31日頃で平年より5日遅く、なし「幸水」の発芽は4月6日頃で3日遅く、りんご「ふじ」の発芽は3月30日頃で1日遅いと予測されています。

なお、この時期の生育は直前の気温の影響が大きいため、今後の気温の推移により大きく変動する可能性があるため注意が必要です。

表1 発芽予測日

	発芽日		今後の気温経過		
	昨年	平年	平年並み	2℃高い	2℃低い
もも あかつき	3月31日	3月26日	3月31日	3月26日	4月5日
なし 幸水	4月10日	4月3日	4月6日	3月31日	4月12日
りんご ふじ	4月3日	3月29日	3月30日	3月24日	4月6日

注) 発育速度 (DVR) モデルによる発育予測。平年は1981～2010年の平均値。

東北地方1か月予報(仙台管区气象台 平成25年3月1日発表)より

今後の気温経過は、1週目(3月2日～3月8日)は平年並の確率が50%、2週目(3月9日～3月15日)は高い確率が60%、3～4週目(3月16日～3月29日)は平年並の確率が40%となっています。

3 栽培上の留意点

(1) 管理作業の計画的実施

この時期の管理はせん定や、せん定枝処理、誘引、休眠期防除などが中心となりますが、発芽予測日と気象予報を考慮し、管理作業が遅れないよう注意してください。

(2) ももの摘らい

摘らい作業の適期は3月上旬から発芽直前までで、発芽期以降は摘らいの際に葉芽を痛めやすい上に花らいが離脱しにくくなり、能率が極端に低下します。摘らい作業は時間を要するので計画的に実施しましょう。

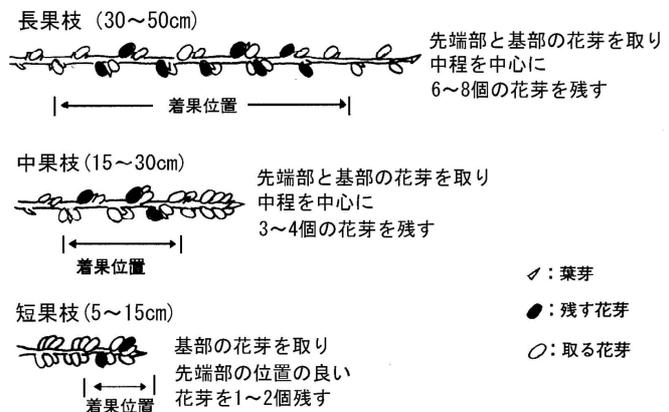


図1 ももの摘らい方法

4 病虫害防除上の留意点

発芽前の防除は時期が遅れないように注意し、温暖無風の日を選んで確実に実施しましょう。

(1) りんご

近年、腐らん病の発生が多くなっています。休眠期から防除を徹底するとともに、発病部位は健全部を含むように削り取るかせん除してください。

うどんこ病のボケ芽等はせん定時に除去し、第1次伝染源の密度低下を図りましょう。

リンゴハダニの越冬卵量が多い園では、発芽1週間前までの防除を徹底してください。

(2) も も

縮葉病やハダニ類、カイガラムシ類、アブラムシ類に対して、休眠期の防除を徹底しましょう。

コスカシバの発生が多い園では、縮葉病防除後に防除薬剤を幹および主枝に手散布してください。

(3) な し

黒星病に対しては、発芽10日前までの防除を徹底しましょう。また、枝病斑は伝染源にはなりませんが、枝病斑が見られる条件下では芽基部感染も多くなるおそれがありますので、枝病斑の有無を確認しながらせん定を実施してください。

黒斑病の越冬伝染源（枝病斑、ボケ芽）は、せん定時に取り除いてください。

ハダニ類、カイガラムシ類に対しては、休眠期の防除を徹底しましょう。

(4) ぶどう

晩腐病の防除のため、前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し越冬病原菌密度の低下を図りましょう。また、休眠期の防除を徹底しましょう。。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。